

環境(公害)問題の变革 ~被害者から加害者へ~

環境(公害)は、ごみ問題、公害汚染、森林破壊など、多岐にわたっています。

かつての時代は、特定の企業などが原因となった「公害」が環境問題の大きなテーマであり、被害者と加害者がはっきりしていました。

しかし今では、モノを消費し続ける個人のライフスタイルそのものが環境汚染の大きな原因にもなっており、地球温暖化問題や酸性雨、オゾン層の破壊など環境問題がグローバル化しています。

私たちは暮らし方によって、自らを環境問題の被害者としながら、同時に加害者になってきているのです。

公害問題

日本の公害の原点とされるのが、明治中頃(1880年代)から始まっていたとされる足尾銅山鉍毒事件です。戦後になると、高度経済成長にともなって各地で産業公害が多発し、深刻な健康被害をもたらして社会問題化しました。とくに、イタイイタイ病(富山県)、水俣病(熊本県)、新潟水俣病(新潟県)、四日市ぜんそく(三重県)は産業公害の典型例とされ、四大公害とされています。



●足尾銅山(鉍毒・煙害)

写真提供：渡良瀬川鉍毒根絶太田期成同盟会



●大気汚染



●水質汚濁

●足尾銅山鉍毒事件

足尾銅山から銅やカドミウムなどを含む排水が渡良瀬川に流出し、下流地域の両毛地帯に多大な被害を及ぼした。

●大正11年(1922年)イタイイタイ病

神岡鉱山からのカドミウムが原因で富山県神通川流域で発生。

●昭和31年(1956年)水俣病

熊本県の新日本窒素肥料(現・チッソ)水俣工場からのメチル水銀を含む排水が水俣湾を汚染し、患者発生。

●昭和36年(1961年)四日市ぜんそく

三重県四日市の石油化学コンビナートの硫黄酸化物を含むばい煙が大気を汚染し、ぜんそく患者多数発生。

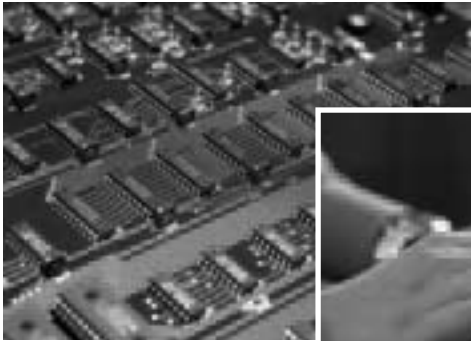
●昭和39年(1964年)新潟水俣病

アセトアルデヒド製造の昭和電工鹿瀬工場からのメチル水銀を含む排水が阿賀野川を汚染し、下流地域一帯に患者発生。

環境問題

現代の大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済システムは、地球環境に対し大きな負担をかけるものであり、自然環境のバランスを崩し始めています。

その影響により、地球温暖化や酸性雨、オゾン層の破壊など大気・気象の異常を引き起こし、森林資源の減少や土壌劣化、水質汚濁など、生態系の破壊が進んでいます。



●生産



●消費



●廃棄

新たな公害

ダイオキシン問題



●ごみの焼却などで発生するダイオキシン類
廃棄物の燃焼にもなって発生するダイオキシン類は、大気や土壌を汚染し、問題視されています。

アスベスト問題



●吹きつけられたアスベスト（石綿）
アスベストの吸引が原因で発生したと思われる中皮腫や肺ガンによる死亡者が増加しています。
出典：環境省 HP

【公害問題と環境問題の違い】

公害問題	環境問題
被害者と加害者が分かりやすい	被害者であり加害者であることが多い
発生地域が特定しやすい	発生地域が地球全体に広がっている
解決できるものが多い	ほとんどのものは解決しにくい

公害問題と環境問題。似ているようですが、だいぶ違います。
公害問題も大変ですが、環境問題はそれ以上に大変そうです。